

事務事業評価シート

評価実施年度：平成28年度

上位の施策名称	施策Ⅰ-2-3 農林水産業の担い手の育成・確保
---------	----------------------------

1. 事務事業の目的・概要

事務事業担当課長	農業経営課長 栗原 一郎	電話番号	0852-22-5392
----------	--------------	------	--------------

事務事業の名称	農業制度資金融資事業
目的	(1) 対象 認定農業者等 (2) 意図 規模拡大や多角化、集約化、生産性の向上など、農業経営の高度化ができるようにする。
事業概要	・利子補給や原資預託により、低利・無利子での農業制度資金の利用環境を整備する。 ・農業信用基金協会への出えん・損失補償により、無担保・無保証人で農業制度資金が利用できる環境を整備する。

2. 成果参考指標

成果参考指標名等		年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	単位
1	指標名	農業制度資金の融資額拡大率	目標値	105.0	105.0	105.0	105.0	%
	式・定義	融資額/直近3か年の平均融資額×100	取組目標値					
		実績値	111.3					
			達成率	-	-	-	-	%
2	指標名		目標値					
	式・定義		取組目標値					
			実績値					
			達成率	-	-	-	-	%

3. 事業費

	前年度実績	今年度計画
事業費(b)(千円)	225,897	1,211,467
うち一般財源(千円)	36,886	35,087

4. 改善策の実施状況

前年度の課題を踏まえた改善策の実施状況	②改善策を実施した(実施予定、一部実施含む)
---------------------	------------------------

5. 評価時点での現状(客観的事実・データなどに基づいた現状)

・近年の生産コストの上昇やTPP対応などで農業経営を取り巻く環境は不透明さを増しており、運転資金需要の増加が依然として続いている。

6. 成果があったこと(改善されたこと)

・短期運転資金については、平成26年度より予算額の増加により需要増に対応している。
・前年度よりは減少したが、既存貸付金の返済条件緩和の要請があり、対応を行った。
・平成28年1月の雪害については雪害等対策資金を創設して対応した。
・これらを通じて、認定農業者の規模拡大や新規就農のみならず、既存貸付先の農業者の資金繰りの安定に寄与した。

7. まだ残っている課題(現状の何をどのように変更する必要があるのか)

- ①困っている「状況」
- ・短期運転資金や一部の無利子枠の資金(公庫資金)については依然として需要が高く、融資枠が不足している。
 - ・既存貸付金の返済条件緩和の要請は今後も拡大が見込まれる。
- ②困っている状況が発生している「原因」
- ・農業者からの需要の高い有利な資金は、国の予算枠による制約があり、融資枠の拡大は困難。
 - ・経営環境が好転しないことに加え米価の下落も重なり、農業者の資金繰りは依然として厳しい状況が続いている。
- ③原因を解消するための「課題」
- ・農業者の資金ニーズの把握に努め、国への予算要望や他資金への誘導を行うことが必要。
 - ・個々の農業者の経営状況や資金繰りの早期把握に努め、個別の返済条件緩和対応(借り換え等を含む)を行うことが必要。

8. 今後の方向性(課題にどのような方向性で取り組むのかの考え方)

・基本的には融資機関と関係機関が連携して情報共有を進め、適切な資金への誘導や、返済条件緩和への対応を行う。
・そのためには関係機関の連絡調整を密にすることが不可欠であり、引き続き担当者会議の開催や各種情報交換の場の設定に努める。
・国予算に係る融資枠の拡大については、予算要望を継続する。
・返済条件の緩和については引き続き柔軟に対応するほか、大きな経済変動や災害の際は、早期の情報収集により引き続き緊急対策資金等での対応を行う。

9. 追加評価(任意記載)

・課(室)内で事務事業評価の議論を行うにあたっては、本評価シートのほか、必要に応じて、「予算執行の実績並びに主要施策の成果」や既存の事業説明資料などを活用し、効率的・効果的に行ってください。
・上記「5. 評価時点での現状」、「6. 成果があったこと」、「7. まだ残っている課題」、及び「8. 今後の方向性」について、議論がしやすいように、「5. 評価時点での現状→6. 成果があったこと」、又は「5. 評価時点での現状→7. まだ残っている課題→8. 今後の方向性」が一連の流れとなるよう、わかりやすく、ストーリー性のあるシート作成に努めてください。